

古支隊ノ指揮下ニ入ラシメラル

▼傳達行動

(一)十二月十五日夜暗ヲ利用シ一部(第二大隊)ヲ以テ陣路、主力ヲ以テ海上ヨリ傳達ヲ開始ス

(二)拂曉迄ニ先ツ兵員ノ傳達ヲ終了スル豫定ナリシモ陣路部隊ハ土匪ノ爲メ所々積集ヲ被襲セラレアリテ行動重ノ如クナラス、海上部隊ハ舟艇ノ故障並ニ道路等ヲ誤リ行動拂曉後ニ及ビ敵艦ノ攻撃ヲ受ケ若干ノ損害ヲ受ケ舟艇三ツ焼失シ歩兵砲並機銃若干ヲ失フ

(三)敵艦自由自在ニ機銃シ奮闘ノ行動ハ制限ヲ受ケ友軍機一機モ目撃セズ

獨兵員ノ傳達ハ數日ヲ要シ機銃彈藥(一會戰分)機銃並機銃材料ノ傳達ハ機銃彈藥不足シ現地機銃ニ依ル民船ヲ使用スルノ止ムナキニ至リ十數日ヲ要セリ聯隊司令官同本大隊此ノ傳達ヲ監督シ苦心セリ

二、「バターン半島」傳達後ノ情況

(一)指揮關係

1、自十二月十四日「マニラ」防衛司令官ノ部下ニアリ

2、自十二月下旬・至昭和二十年一月中旬間戰車第二師團長ノ部下ニ入ル當該師團參謀長一月上旬陣地觀察ニ隨揚セラル此ノ際戰車一小隊(二直)ヲ配屬セラレタリ尙ホ通信ニ關スル緊密ナル連絡ヲ遂ゲ

3、自一月中旬・至拂曉間機銃集積場ノ部下ニ入ラシメラル依ツテ通信班長ヲ聯隊司令部ニ派遣シ通信連絡ニ關スル協定ヲナス

4、戰車小隊(小隊長竟木中尉)ハ本隊復讐ヲ斷念シ支隊ト戰闘ヲ共ニセリ

復讐斷念ノ理由ハ土匪機銃シ積集被襲セラレアルヲ以テ行動困難ナルト「リンガエン」方面ヨリ敵軍ノ一部南進シアルノ情況ニ依リ復讐ニ成算ナシ

5、情報急轉ニ依リ指揮關係度々變更セラレタル爲メ上下意志ノ疎通ヲ缺キ機銃集積場トハ終戰迄デ一回モ通信連絡ヲ爲シ得ズ一呼出符號ニ依ルモ應答無シ、徒歩ニ依ル再度連絡ハ土匪並敵兵所在ニ授

入出波シ通信網定建ニ成ラズ戦開始後二月中旬戦車第二師團ト漸ク連絡ヲ得テ戦斗經過ヲ第二師團參謀長ヲ通ジ方面軍司令官ニ報告スルコトヲ得タリ、連日連夜通信班長以下ノ不眠不休ノ努力ノ賜ナリ、連絡成功セシ時ハ苦慮一時ニ消散シ將兵一團莫ク揚ゲタル情況ナリ

6、バタン半島戦闘以來終戦迄一四タリトモ上級指揮官ノ指示モ無ク通信モ杜絶ノ状態ナリタルヲ以テ全ク孤立シアル支隊長ハ情況ノ變化ニ斷シ決心處置ヲナスニ當リ當初受ケタル方面軍司令官ノ命令ヲ繰リ返シ得難シテ任務ヲ脱進スルコトヲ敢シテ最後迄テ死守ヲ敢行スルノ決意ヲ促進セリ

口兵 方

歩兵第三十九聯隊（第一大隊缺）

砲兵一中隊（中隊長ノ指揮スル一小隊缺）

（中隊長ノ指揮スル砲一小隊「マニラ」湾口防衛隊ニ轉ス）

工兵一中隊

臨時配屬部隊

現職守備ノ歩兵二中隊

「サンマリセリノ」兼行營山上部隊（スピツク灣西北方八吉）

（同地ヲ警備シ永吉支隊ニ來リ指揮下ニ入ル）

兵員數 三千八百

日任 務

當面戰線ニ當リ方面軍司令官ヨリ受ケタル任務以外ニ變化無シ

四建武集團トノ連絡

- (1) 無線連絡ハ呼ビ出スモ應答無ク昭和二十年二月中旬支隊方面ノ情況通迫シアスヲ以テ將校ノ指揮スル二分隊ヲ派遣シタルモ行衛不明トナル
- (2) 一月下旬以來「クラーク」方面砲聲散々タリ二月中旬ニ至リ「クラーク」西方山地方面ニ砲聲移動シツツアリ、建武集團ハ「クラーク」西方山地ノ該點陣地ニ後退シ敵ノ攻撃ヲ受ケアルモノト判斷ス
- (3) 「サンマリセリノ」（スピツク灣西北方八吉）方面ニ派遣セル將校斥候並偵察隊ハ建武集團ニ屬スル貨物廠ノ將兵ト遭遇シタル結果建武集團方面ノ戦闘狀況ヲ承知シタル外二月下旬以來分散自衛態勢ニ移行

シ、食糧ノ獲得ニ苦心シアルノ情况ニ接ス

(2) 二月中旬再渡將校ノ指揮スル小部隊ヲ建設集團右翼部隊ノ所在スルト
判定セラルル山地ニ派遣セシモ連絡シ得ズ

編米軍攻進時ニ於ケル兵力配備

要圖 配設(要圖其I)

陣地線ノ決定概要

海進ニ當リ、1000名、マニラ防衛部隊長ト協同研究ノ結果後退配備ヲ
採用一區ヲ水際ニ配置ス

2 陣地編成

増強、湖濱式、作業約一ヶ月、完成ニ至ラス

森林内ノ割高地點及道路南側ノ要點ヲ占領シ上空ニ進駐ス

對戰車内迫撃砲ノ倒々ノ掩体

對戰車陣掃物

道路南側並木(徑100M) 燃藥倒木處置

(4) 戰術經過ノ概要 要圖参照(要圖其II)

1、昭和二十年一月三十日敵ハ一部ヲ以テ「スピツタ」河口「ゲランド」
島」ニ上陸シ是ヲ據點トシテ主力ハ航空機掩護下ニ「オロンガバ」北
方海岸ニ上陸ヲ開始ス、本隊部隊ハ戰闘ヲ開始シ不意襲撃ス

本隊部隊ハ戰闘ヲ開始シ遂次上陸ヲ進行ス
ニ後退ス

2、上陸部隊ハ遂次「オロンガバ」ヨリ其ノ北方ニ亘リ水際附近ニ陣
地ヲ占領ス

二月一日約數百名ノ戰車ヲ伴フ米軍ハ道路上ヲ我II主陣地ニ無警戒ニ
前進シ來ル我陣地線ヲ知ラザルガ如シ、我軍急激ヲ持シテ敵ヲ陣前ニ
誘致シ短切不意襲撃スルト共ニ戰車内迫撃砲班ハ戰車ヲ敢行ス敵ハ多
大ノ損害ヲ蒙リ死傷者ハ貨物自動車數台ヲ以テ收容避難シ「オロンガ
バ」ニ後退ス

3、二月二日以來我陣地線ヲ推定シ優勢ナル火器ヲ以テ燃焼ナル砲撃ヲ
開始ス

當日へ前進シ來タラス 上陸部隊ハ「オロンガホ」附近ヨリ其北側地
區ニ密集シ上陸部隊ヲ監視シアルモノノ如シ 砲兵陣地十數門ハ「オ
ロンガホ」西側附近ユタ喜合ヲ點キ海岸附近ニ見ル夜間ハ燈火ヲ點シ
アリ

砲兵小隊ハ俄然夜間射撃ヲ開始シ敵ノ損害相當ナルモノアリ撃破ノ狀
態斷ニ絶セリ

タ、二月三日乃至二月五日ノ間ノ砲撃ハ二十數門ノ火砲ヲ以テ連射シ一
日平均二万乃至三万發ノ砲彈落下セリ

支隊ハ連夜新込駐ヲ以テ攻撃ヲ敢行ス其ノ目標ハ敵ノ火砲、砲臺機飛
行機、喜合ニシテ其ノ七割ハ成功ス、其後新成隊意トナリ機砲ノ防
衛ト監視ノ新創ニ依リ近接困難トナリ一側班ノ行機數目ヲ要スルニ
至ル

リ
タ、工兵中隊ハ陣地構築以來肉迫攻撃、新込等ニ果敢ナル戦斗ヲ遂行セ

タ、敵ノ戦法ハ砲撃ニ依リ陣地ヲ破壊シ戦車ヲ第一線トシテ攻撃シ來ル
我將兵尙ホ陣地ヲ固守シアルヲ知ラハ後退シテ再三砲撃ヲ熾烈ニ實施
ス我ハ一兵トナルモ尙ホ死守ス、敵歩兵ノ突進ヲ見ズ

タ、スピツタ高ハ無數ノ鐵船群集シ材料ノ揚陸盛ンニシテ我飛行機一機
モ無キヲ嘆ズ

タ、敵ハ空地連絡緊密ニシテ常時監視機存在シ砲臺的機ニシテ好目標ヲ
發見セハ砲彈集中ス、我砲兵モ彼撃セラル、空中機無キ戦斗ハ苦痛ナ
リ

タ、二月六日以後砲撃、爆撃熾烈ニシテ卒々タル千古斧鉞ヲ入レザル大
森林モ清野ト化スルニ至リ第一線陣地ハ殆ンド覆滅セラルモ殘存ノ
將兵尙ホ奮戦ヲ繼續ス

連射砲中隊長一ノ瀬正明大尉ハ敵戦車ニ多大ノ損害ヲ與ヘ壯烈ナル戦
死ヲ遂ゲ

第一線各中隊ハ優勢ナル砲撃ノ餌トナリ悲慘ナル戦斗ヲ遂行シ兵員
遂次減少シ直接戦斗ニ参加シ得ル者各中隊十數名トナル第十一中隊（
中隊長大形中尉）ノ損害亦ニ大ナリ

- 10 新込隊へ決戦戦法ニハ非ラザル備々ノ戦果ヲ揚ケツツアリ長キハ一週間ヲ要シテ歸來スルモノモアリ是レ行進全圖ノ極限ト長時間ノ潜伏ニ依ル
- 11 二月七日ニ至ルモ尙本頑強ニ抵抗シアルヲ以テ「デナルビアン」方面ヨリ背西攻撃ヲ實施シ來ル、兵力ハ迫進砲撃門ヲ有シ装甲自動車ヲ伴フ一千名ナリ
- 12 聯隊附中山少佐ノ指揮下ニ「サンマリセリ」飛行場地上部隊ヲ基幹トスル臨時大隊ヲ編成シアリタルヲ以テ「デナルビアン」方面ノ敵ニ對戦セシム(三百名)
- 13 龍本中尉ノ指揮スル戦車小隊ハ「デナルビアン」方面ノ敵漸次近接セシヲ以テ機ヲ見テ攻撃ヲ遂行シ多大ノ損害ヲ與ヘ敵ヲシテ退却セシム
- 此ノ戦斗ニ於テ龍本中尉ハ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ戦車ハ砲彈ノ命中スル廣トナリ拘坐シタルモ陣地ノ一機斷ヲ形成シテ進軍ヲ遂行セリ
- 14 中山少佐は聯ニ負傷スルモノ之レヲ醫シテ戦斗ヲ繼續セシヲ以テ將兵一同悦服ス
- 15 第二大隊方面ノ情況(二月上旬以降)
- 「バランガ」方面ヨリ敵兵數百名攻撃シ來リタルヲ以テ反撃ス
- 「バガンタ」方面ヨリ敵等ノ進攻雖シ來リ然レモ進軍ナシ進軍ヲ受テ
- 支隊長ノ命ニ依リ「ナチア山」南麓ニ陣地ヲ變更セシム、兵力ヲ貯蓄シテ
- 報復ノ戦斗ノ意圖ヲ有ス
- 16 二月十日支隊本部ハ第二陣地右翼據點(金剛山ト命名ス)ニ位置ヲ變更ス
- 第二線部隊ヲ以テ遂次支隊本部附近ノ右翼據點ヲ守備セシム
- 本陣地ヲ最後ノ復讐場所ト定ム
- 17 二月十一日敵ノ進軍雖シ然レモ第一線本部附近並其北方陣地ハ確シト潰滅セラレ最右翼中隊ハ兵員數名トナル
- 敵ノ主攻ハ此ノ方面ニアルモノノ如シ敵ハ左翼ヲ暴露シアリテ攻勢ニ轉セバ敵方面ハ必ズ成功スルト判斷スルモ兵力無キヲ如何ユセシ
- 18 第一線兵力殆ンド消耗セシヲ以テ第二陣地最右翼方面(小富士山ト命名ス)ニ強兵ヲ募集集結シテ陣地ヲ變更セシム

二月十二日戦ノ情况ナリ

第一陣陣地ニハ向キ一、二名洞窟ニ占據シアリ

19 二月十三日以降ハ第二陣陣地左右兩據點ヲ確保シ戦斗ヲ繼續ス

敵ハ我將兵ノ勇猛ナル戦斗ニ依リ今尙ホ陣地ヲ突破シ得ス又兩據點ニ對スル攻撃ヲ遂進シアラズ

20 戦斗開始以來ノ戦果

敵ノ兵員ノ死傷者 一千五百名ト推定

火砲、被擧撃門

戦車、装甲車等被擧 六輛

飛行機被擧 失上 五機

毒會失上 七

其他戦斗資材 糧秣等多數

21 我方ノ現在殘存兵員 (二月中旬)

本隊 七〇名 中山大隊 一五〇名

II 約八〇名

II 七五〇名

22 簡況判斷 (二月中旬) 判決

支隊ハ第二陣兩據點ヲ固守シテ敵ヲ平制抑留シ「マニラ」平地ヘノ進出ヲ阻止スルヲ要ス

理由 (一)「リンガエン島」上陸米軍ハ一部ヲ以テ「クラーク」方面主力ヲ以テ「マニラ」方面ニ進出中ナルモノノ如ク該方面ニ砲聲殿々ナリ

(二)「マニラ」方面ノ友軍ハ目下交戦中ニシテ其戦斗ヲ有利ナラシムル爲メニ毎メテ當面ノ敵ヲ抑留拘束スルニアリ

處置

一、各隊ハ本連附近ニ近迫スル敵ニ對シ奇襲ヲ敢行セシム

二、敵機被化彈隊ノ本連突進ヲ阻止スル爲メ工兵隊ハ爆藥ニ依ル攻撃並ニ

障礙物ノ設置

23 右判斷ニ基キ戦斗ヲ繼續シアリタルモ二月十六、七日頃ヨリ本連附近玉碎陣地ヲ通過シテ「アナルピアン」方面ニ轉進移動ヲ開始シ我兩翼據點ノ攻

戦ヲ開始セス陽攻ノ程度ナリ 依ツテ奇襲、遊撃戦ヲ進行ス

24 一區ヲ「サンマリセリノ」方面ニ派遣シ又中山少佐ノ指揮スル約一五〇名ヲ

「サンマリセリノ」東北方方面ニ派遣ス

遊撃戦ト食糧入手ヲ目的トス

25 二月下旬ニ至リ食糧缺乏スルニ至リ又マユラ方面、クラータ方面、龜鹿絶へ

主力方面ノ戦斗モ一途終息セシ情勢ヲ觀察シ且ツ「ベタートン」半島ヨリ離脱

スルハ任務ヲ放棄スルモノナリト思考シ「ナチア」山ニ占據シテ本軍方面ノ

情勢好轉ト共ニ相呼應シテ攻勢ニ轉スルヲ良策ト判断シ強兵ヲ「ナチア」山

東側中腹附近ニ轉進セシム

尚ホ該方面海岸地帯へ食糧入手ニ容易ナリト考察セリ